

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 1 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20402004

研究課題名（和文） 現代中央アジア地域における社会開発に関する調査研究

研究課題名（英文） Research on social development in contemporary Central Asia

研究代表者

大谷順子（OTANI JUNKO）

大阪大学・人間科学研究科・准教授

研究者番号：90403930

研究成果の概要（和文）：

中央アジアを調査地域として、社会開発の現状と課題の調査をおこなった。人間の安全保障の概念を取り入れ、特に、保健分野、教育分野、災害、ICT（情報通信技術）の利活用促進による社会開発、地域コミュニティ開発とマイクロファイナンスの取り組みについて調査をおこなった。これらは国連ミレニアム開発目標(MDGs)を達成するための課題でもある。本研究は、先行研究である九州大学教育研究プログラム・拠点形成プロジェクト（P&P）アジア総合研究「アジア地域における人間の安全保障の観点による社会開発に関する新たなフレームワークの研究（研究代表：大谷順子）」の成果を踏まえ発展させて調査をおこない、先行研究において調査が困難であった地域を中心に調査を実施した。

研究成果の概要（英文）：

This research is field research looking at the social development in contemporary Central Asia. Using the concept of Human Security, this research focuses on health, education, ICT, disaster, community development and microfinance. These are the goals of the UN Millennium Development Goals (MDGs). This research has grown out of our previous research funded by the Kyushu University Program & Project on education and research and look into the areas where have not been able to cover in the previous research project.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2009年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2010年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2011年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
総計	10,200,000	3,060,000	13,260,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：国際社会開発、人間の安全保障、国際研究者交流、多国籍、国際保健、人口、情報通信技術（ICT）、地震・災害

1. 研究開始当初の背景

中央アジアの社会開発の現状、またその課題については、他のアジア地域に比べると情

報量が極めて限られている。中央アジアとは狭義には 1991 年に独立したカザフスタンなど 5 カ国を指す。この調査では 5 カ国に加え

て中国新疆ウイグル自治区を調査対象とした。本研究は、先行研究である九州大学教育研究プログラム・拠点形成プロジェクト (P&P) アジア総合研究「アジア地域における人間の安全保障の観点による社会開発に関する新たなフレームワークの研究 (研究代表: 大谷順子)」の成果を踏まえ発展させるため、治安などの情勢の悪化のために先行研究で調査が実現しなかった地域を中心に現地調査をおこなう。

2. 研究の目的

中央アジアを対象に社会開発の現状について調査をおこない、現在の課題を多角的な角度から明らかにする。人間の安全保障の概念を取り入れ、特に、保健、教育、災害、ICT (情報通信技術) の利活用促進による社会開発、地域コミュニティ開発とマイクロファイナンスの取り組みについて調査をおこなう。これらは国連ミレニアム開発目標 (MDGs) を達成するための課題でもある。他のアジアの各地域に比べると中央アジアの情報は少ないため、5カ国と1地域という広大なエリアを対象に4年間で状況把握に努める。

3. 研究の方法

初年度である平成20年度は、タジキスタン、トルクメニスタン、中国新疆ウイグル自治区 (以下、新疆) など中央アジアにおける社会開発の現地調査に注力した。それらの現地調査では各国政府や国際機関、さらには NGO など民間の取り組みをあわせてヒアリング調査やプロジェクトサイトの調査を行った。また、2008年5月に四川大地震、同年3月と10月には新疆において地震が発生したため、これら地域においては被災地調査も行った。その際、新疆大学や、四川大学など現地の大学との連携による現地調査を行うことに加え、アジア開発銀行や世界保健機関など国際開発協力を行う機関へのヒアリング調査も行った。

2年目となる平成21年度は、現地調査を実施する地域については新疆を中心に設定した。中国と中央アジア各国との経済的な繋がりは強固なものになっておきており、新疆を調査おこなうことで、中央アジア諸国との経済的なつながりの現状を把握した。新疆におけるまた JICA (国際協力機構) の遊牧民定住化プロジェクトの視察を含め、現地調査をおこなった。先行研究と本助成研究でこれまで調査ができていなかったモンゴルやロシアにおいても現地調査を行った。国境を越えてのカザフ族など中央アジア人のコミュニティそれらの現地調査では各国政府や国際機関、さらには NGO など民間の取り組みをあわせてヒアリング調査とプロジェクトサイトの調査をお

こなった。

新疆では、2009年7月の7.5事件以来、政治的な緊張状態が続き、暴動が発生すると一部の地域では治安の悪化が懸念される。当初は電話、インターネットがすべて遮断されており、現地との連絡がまったく取れない状況となり、本研究の調査にも影響した。本研究の研究者グループは新疆のカウンターパートとの研究協力の体制を既に確立していたため、継続しての現地調査が可能であった。また2010年4月にはキルギスの首都ビシュケクでの暴動、6月には同国南部の都市オシュでの暴動など、現地調査の再検討が必要な事案も発生した。本研究が対象とする中央アジアという地域の現地調査には困難が伴うことを再確認させられることになった。

4. 研究成果

論文の執筆や書籍の出版など文章での成果発表に加え、学会などでの口頭発表、そして大学の市民公開講座を開催するなど積極的に研究成果の公開を行った。来年度も本研究に関連する研究者による書籍出版も計画しており、日本の中央アジア地域研究に大きく貢献している。国内の学会だけでなく、海外での国際学会でも発表の機会を持つことで、海外での中央アジア研究者ネットワークを構築した。国内と海外の両方において研究会や学会とそのフィールド・トリップに参加し、他の研究者たちとの討論に参加し、発表を行った。

本研究は人間の安全保障の観点から中央アジアを調査し、社会開発の状況を国際開発協力を通して改善するための提言をおこなっている。中央アジアの地域研究に関わる研究メンバーのそれぞれが、本研究での経験を活かし、中央アジアに関連する周辺地域での国際開発協力プロジェクトに従事を開始するなどの派生的な成果も生まれている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計31件)

- ① 大谷順子 「中国の経済成長期におけるコンフリクトーグローバリゼーションにおける環境、災害、健康、人口分野を事例として」『コンフリクトの人文科学』大阪大学出版会、第5号 147-176頁、2012年、査読有
- ② 希日娜依・買蘇提 (シェリンアイ・マソティ)・大谷順子 「新疆ウイグル自治区の特有群體「民考漢」についての研究」『中国 21』特集「民族と開発」愛知大

学現代中国学会編 風媒社 34 巻
281-302 頁 2011 年, 査読有

- ③ 希日娜依・賈蘇提 (シェリンアイ・マソ
テイ)・大谷順子 「中国新疆南部の
農村地域におけるウイグル人女性
の教育状況に関する調査報告」『九
州大学アジア総合政策センター紀
要』4 号 67-83 頁, 2010 年, 査読有
- ④ 河野明日香・大杉卓三・大谷順子「中
央アジア諸国におけるコミュニティ研
究—女性のコミュニティ活動を中心
に」『アジア女性研究』第 18 巻 83-95 頁
2009 年, 査読有
- ⑤ 大谷順子「四川大地震に見る現代中国」
『九州大学アジア総合政策センター紀
要』3 号 23-38 頁, 2009 年, 査読有
- ⑥ Kawano, Asuka., Osugi, Takuzo,
Otani, Junko, ‘Women’s community
activities in Central Asia from gender
perspectives’, Journal of Asian
Women’s Studies, Vol. 17: 70-81,
2008., 査読有

〔学会発表〕(計 35 件)

- ① Takuzo Osugi, Social development
needs in ICT sector in Central Asia, VIII
International Council for Central and
East European Studies World Congress,
26-31 July 2010, Stockholm
- ② Junko Otani, Environmental health at a
time of economic growth in China:
Globalization and conflict, Osaka University
Forum 2010: Globalization and Conflict:
Entanglement between local and
cosmopolitan orientations, 28-30 September
2010, University of Groningen.
- ③ Junko Otani, Awareness of college
students on health impact of smoking
and impact of health education in
Central Asia, measured by the Kano
Test for Social Nicotine Dependence
(KTSND), The 9th Asia Pacific
Conference on Tobacco or Health
(APACT), 6-9 October 2010, Sydney.

〔図書〕(計 39 件)

- ① 大谷順子 『災難後の重生』(中国語)
南天書局 (台湾) 2010 年全 364 頁
- ② Junko Otani “Older people in natural
disasters”, Kyoto University Press & Trans
Pacific Press: Australia, 2010 年, 全 278 頁
- ③ 大杉卓三・大谷順子 『人間の安全保
障と中央アジア』花書院 2010 年 全
255 頁
- ④ 大杉卓三 『情報ネットワークで結
ぶシルクロード—国際開発協力から

みた現代中央アジア』中国書店 2009
年 全 175 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大谷 順子 (OTANI JUNKO)

大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授
研究者番号: 90403930

(2) 研究分担者

大杉 卓三 (OSUGI TAKUZO)

九州大学・日本エジプト科学技術連携セン
ター・研究員

研究者番号: 10380677